

## 第2回京都府食育推進懇談会における主な意見及び府の対応

番号	項目名	御意見の要旨	事務局回答	P	章	項目	修正前	修正後	修正の方向性
1	全体	体系の順番、前回達成できていないという状況から考えると、家庭があって、学校、保育所幼稚園があって、大人の食育は3つ目で、全体をサポートするのが地域ではないか	検討したい	8 10 12 23	2 3 4 6	3(1) 2(1) 1(1) 1	今後の課題、施策体系、施策の展開、目標 ①大人 ②家庭 ③学校 ④地域	①家庭 ②学校 ③大人 ④地域	順番を変更します。
2	家庭での食育	フードバンクでの食材の提供で、食品ロスを少しでも減らしたいっていう取組をしていく。	食育ネットワークとして行えることを考えたい	25	参考資料		—	参考資料の1その他計画等との関係に「京都府食品ロス削減推進計画」を追記します。	食品ロスは、別途計画があり、社協さん等がネットワークを構築。計画との連携について記載したい。(第4章の2で記載)
3	学校等での食育	地場産物を扱うなど、農家さんと繋がって貰える人が必要	食育ネットワークとして行いたいと考えている	1 14	1 4	4(1) 1(2)	・食育に関連する様々な団体で結成した「きょうと食育ネットワーク」を中心に、「きょうとの食育」サポート企業をはじめとした、食育に関わる様々な団体と連携して、府民運動として推進します。 ・授業や学校給食等、学校教育活動全体を通じて、学校、家庭、地域が連携した、食の知識、食習慣、地域の食材、食文化等への理解と、食への感謝の気持ちを深める取組を推進します。	—	地場産物の利用率を数値目標としている中、食育ネットワークとして行いたい
4	大人の食育	きょうと食育ネットワークに大学の健康部門、企業参入を進めることについて、コラボレーションの調整を食育ネットワークが行うのか	食育ネットワークとして行いたい	1	1	4(1)	食育に関連する様々な団体で結成した「きょうと食育ネットワーク」を中心に、「きょうとの食育」サポート企業をはじめとした、食育に関わる様々な団体と連携して、府民運動として推進します。	—	第一章の推進体制で記載した内容として、食育ネットワークとして行いたい
5	大人の食育	食堂では、コストと量の確保が必要。旬の野菜はコスト・量・栄養・文化的にも良いものなので周知すべき	様々な観点からアプローチしたい	16	4	1(3)	大学や企業と連携し朝食摂取やバランスの良い食生活の重要性を科学的根拠に基づいた情報を分かりやすく伝え、実践につなげる取組を進めます。	大学や企業と連携し、朝食摂取やバランスの良い食生活の重要性を科学的根拠に基づいた情報を分かりやすく伝えるとともに、旬の野菜のメリットや手軽に作れる常備菜のレシピなどの情報提供を通じ実践につなげる取組を進めます。	大人の食育の取組の中に追記しました
6	大人の食育	若い世代で常備菜という感覚がない。そういう観点も必要では	観点を盛り込みたい	16	4	1(3)			

番号	項目名	御意見の要旨	事務局回答	P	章	項目	修正前	修正後	修正の方向性
7	地域での食育	食生活改善推進員に加えて、学校の栄養教諭や栄養士会など地域で活動されている方々の連携についても記載すべき、	検討したい	18	4	1(4)	「きょうと食いく先生」や「食生活改善推進員」など食育ボランティアが保育所、幼稚園、認定こども園、学校、地域の多様な主体（児童館や公民館、コミュニティセンター、PTA、保護者グループ、高齢者グループ等）において、各世代に応じた健全な食生活への理解や食への感謝の気持ちを深める体験型食育を強化し、地域や府民の食育を推進します。	「きょうと食いく先生」、「食生活改善推進員」などの食育ボランティアが保育所、幼稚園、認定こども園、学校、地域の多様な主体（児童館や公民館、コミュニティセンター、PTA、保護者グループ、高齢者グループ等）において、 <u>管理栄養士・栄養士・栄養教諭等の関係者と連携しながら、各世代に応じた健全な食生活への理解や食への感謝の気持ちを深める体験型食育を強化し、地域や府民の食育を推進します。</u>	管理栄養士・栄養士・栄養教諭等の関係者との連携について追記したい
8	地域での食育	災害時の食育についても追記すべき	検討したい	18	4	1(4)	(新規で追加)	<u>災害時には、平常時とは異なる食環境への対応が強いられることから、家庭内における食料品の備蓄などの防災知識の取得について食の安全の取組と連携して行います</u>	災害時の食について追記します
9	持続可能	京都独自の栽培方法によって栽培されたものなど、歴史の発信を強化すべき。 伝統野菜を使用したレシピの開発等も効果的。 各地にある伝統野菜の授業があれば、地域を知ることもでき、アイデンティティの確立につながる	レシピなどの取組は継続して実施。農林水産業の魅力発信は食の安全の取組と連携して実施したい	20	4	2	きょうと食いく先生の活動を通じて学校授業の深堀りのみならず農林水産業の魅力やその価値を増す取組を進めます。	きょうと食いく先生の活動を通じて学校授業の深堀りのみならず、 <u>京都府独自の栽培技術や生産物の歴史を伝えることで、農林水産業の魅力やその価値を増す取組を進めます。</u>	歴史の発信について、追記し、農林水産業・農林水産物の価値を高める取組として追記したい
10	持続可能	食育を通じて、農産物の理解もありますが、価値を高めてもらうことが必要	文章を見直したい	20	4	2			
11	持続可能	農林漁業体験や退職して農業を始める方々向けの情報提供も必要	広報の幅を広げたい	20	4	2	食に関する正しい知識や食の魅力を広く伝えるため、「京都府食の安全・食育情報」などFacebookをはじめとしたSNSや、「京都府食の府民大学」などYouTubeチャンネルなどのデジタルメディアを <u>通じた食に関する情報を発信します。</u>	食に関する正しい知識や食の魅力をはじめ、 <u>農業体験や就農情報など幅広い食に関する情報を伝えるため、京都府食の安全・食育情報</u> などFacebookをはじめとしたSNSや、「京都府食の府民大学」などYouTubeチャンネルなどのデジタルメディアを <u>活用します。</u>	食に関する幅広い情報を発信する旨追記したい